

報時丁然尔亜  
録附藝文

第十四号 - NOV. DE 1930 - 卷五第

七子氏と再び迎へて

角笛

昨年一月七子氏送別の一文を最後として今日の日誌紙上を同人諸君に  
見せられた私共同人代表格で敬啓の筆執ることはいふに及ばず、若くは  
約二年振りで黙想的な氏の笑顔を見た時にはたゞ再会の喜びだけで  
一杯であつたが、御座るに親しみと更に深くして語りあつて見ると、氏の  
帯垂は吾々の実生活に感られる淋しさの象を一層濃く加へるかの感  
がある。

七子氏の様に社会の風潮に迎合の熱心なよりも社会の眞理に忠実性を  
より多く持つ性格は自己の眞実性を捨て、他輕薄な現在の風潮  
に従従の出来ぬ人と思ふ。其れだけ氏の帯垂も悲しまれぬ点があつた  
かも知れぬ。

友情に於ては再び迎へる喜び溢る、ものがあるが、氏をよく知り、そのキ  
ヤパンチーに對し信する吾等の心の底には、包容性のない日本の現状が  
呪はしい氣持が働くことを禁じる事が出来ぬ。

だゞ吾々のよく知る様に、人間の價値は棺の蓋を蔽ふて始りて  
定まるものだと。

室玉は何日の世にぐ地中から米を放つことがあることを信じて疑はぬ。  
特に吾國に於ける吾等の社会で、最も欠くるものは氏の標を透徹し  
た理性の批評家であり指導者である。

斯の意味でも七子氏の再渡航は吾等に欠くるものを補はれるもので  
ある。

敬啓の辞にはなつて居らぬかも知れぬが、月並みな御世辭の嫌ひな氏  
であるが、辛直に思ふ知を述べて駄文の筆擧ぐることとする。

# ダンゼン王国シネマ

七子

近ける沢田正二郎は一代の風雲児ではあつた。亡き小山内薫氏は華劇界無二のコンダクターであつた。然し此の両雄を失つたが爲に在来の劇界新興運動が俄然暗礁に乗り上げて現在の如く支離滅裂と化したのであらうか？ 稀代の策士松竹が大衆の興行手段を益しても菊五郎に幸四郎に昔日の歌舞伎観客を呼び得ないのは何ユエであるか？ 不況？ 否、是を一般観衆の興味中心が断然映画界に根城を据えてしまつたことに起因するのである。茲に春秋の筆法を藉れば大河内傳次郎や阪東妻三郎が吉右エ門や猿之助よりエライ。伏見直江が梅幸よりスグレることになる。

不況が如何に血が滲むほど深刻でも、例へば場内に立錐の餘地が無からうと、観るなら「カンドウ」への民衆である。野球と映画は日本に於て「熱狂の気味」を以て一般大衆に迫つてゐる。其の微に入り細を穿つた映画鑑賞（取賞？）の方法は、遂に常軌を割つてゐる。茲に數十種と算する映画雑誌が發刊され、数種を越ゆるパンフレットが頒布されてゆくのである。巷間のエハガキ店頭、必ず足を止めた人の群がある。彼等の眸を惹くものは人気スターの百態プロマイドだ。観衆にして既に此の熱がある。豈、映画人たるもの馬力百パーセントの努力なからざるべからざるである。

投資総額廿余億弗と算する北米映画製作界に較べて日本の三千万円は聊が桁が違ひ過ぎる。而も百分の一に充たない規模の下に、無声物に於ては、よく北米物とレベルを競ふに足る映画を生みつゝあるに至つては、是れ奇蹟的勢力と云ふの外はない。過ぐる西三年間の日本映画の進境は、誠に嘆賞に値する。

現在、毎週平均二本（二は現代物一は時代物）の新作と封切上映してゐるものが六会社、日活、松竹、帝キネ東映、マキノ、河合の順序である。就中、日活と松竹とが断然頭角を擡んで居り、劃策勢力、人気共に伯仲の間にある。松竹は帝都を以て、薄田に現代劇部據拠所を有し、ロケシヨンを宣傳上一步の利を占むる關係上、現代物に於ての人氣は常に日活を凌ぐ傾きがある。松竹が好んで悪役物製作に主力を向け、シヨンの超特作品も殆んど現代物である点も、或る程と肯づけられる。今尚ほ昔往と偲はせる旧時代の名残りも、隨所に留めてゐる京都の地に、新旧兩部の撮影所を持つ日活が近い背景を利用して大作に於て代物を壓するも當然の理である。そして時代物に於て常には他を圧倒してゐる。松竹とて、も下加茂に時代劇部はある。然しそれは、新旧相隣る日活に較べて孤立の弱點がある爲に、常に一時を輸つねばならぬ。今夏封切された日活の佳作「唐人お吉の如き」新旧兩部で動員を必是とする物は、松竹が如何に地團踞下でも作れないのである。現在の如き食弱ふる資本の下では、新旧双方から「同に合ふ能優その他」を持つて、持たせられ、せねば到底大作は出来ぬ。実情である。そして此の樹持ち馬力律を標準として、総てを「ライダ」される映画人又大いに同情されべきである。

活動者は「いな」と思へる。新聞雑誌のネタに上る口絵に広告に殺られる。時に「ファン」の部屋の壁に

祭られて夜半の夢に現はれたりする。それは甚だウ  
ラマッる。然し日本の映画人たる者は甚だアフレコで  
ある。今は殆ど恒例宣傳となつた新年、中元等に各  
映画館で催すスターの挨拶出場のとき其の一端を窺  
へる。華やかに着飾つたスター達、満場の拍手を浴  
びて舞台上立つ。其の顔は、皮膚の色は、(是れは  
夏の場合である)黒く種々の整列である。女優は  
赤だし白粉で危くゴマカシである。(尤も中には及川  
道子の如く撮敷以外はダンス化粧せぬ女もある)。  
男優に至つては素顔なるが故に、印度人と抜く数分の  
黒さなのである。是れ彼等が曲陽百度の灼熱を浴  
びるロケーションの苦難の烙印である。パランク建の撮  
景所のセントで百廿度の酷暑と闘つた汗と油の刺印  
である。而も其の顔には「演技」としてフィルムに印せら  
れ日本独特の辛辣な批評の上に横たはるものがある。  
ある。活動後者たるノンライイ故である。でもスター級  
は泣き笑ひもバラバラとされる。ワンサガール連と未だ  
ら副業の当り藝を演じて辛かして息を吹き、オナ  
サケボーイ組に至つては一月の脚本十五円也。生  
きてゆけるのが不思議な位である。

外国物は暫く措いて、日本物のトキキ連本は教に  
質に徹々たるものである。高田雅夫セイ子の印度の  
月、水谷八重子の「大尉の娘」(松竹)五月信子の「假名  
屋小梅」(松竹)千代紙映画「お蘭所」傳明相代の「大都  
会」(労働新聞松竹)高津慶子の「何ぞ彼女をどうせ  
たか」(帝キネ)藤原義江の「ふるさと」(日活)の教種が  
出たのみ、それも設備の不完全さ或は製作者の技巧  
が足りない為、音声がいかにも爆撃式で狭窄的で  
外国物に慣れた耳にも甚だ聞きづらい。期待されて  
ゐる帝キネの「子守唄」の如きも唯、開演後女子文の

映画出演者の好奇心をあらはるのみにあつて上映の  
時は藤原義江の「ふるさと」に於けるが如く、教種の  
女子ファンにとつて不満なトキキであらうことは疑  
ひもない。

「日本映画」の盛況トキキに表つてゆくがどうかは  
甚だ疑問である。日本には独特の映画説明者なるもの  
がある。それが日本物上映の場合には完全な材料を  
使ひ分ける声色師となる。音響に対する機音も半  
い如く手づかしく通り方だ。音楽も和洋を兼備して映  
演場面としくり合はせる。昨年あたり續坐した  
小唄映画の如きは是等に歌手を配して、気分を点で  
もトキキに遜色のない感銘を興へて呉れる。トキキ  
ならぬは……と遺憾を感ずる点も少くないので  
ある。だから説明者の向上と完備とは要求されても  
資本難、出演者難、ストーリー脚本の障害を狂脱し  
てまでトキキに出来ることは躊躇されるのも無理は  
ない。蒲田の女王葉島すみ子すら月俸一千元に足らぬ  
のに、開演文の一本の出賃料一萬五千元は法外であ  
る。有名な声楽家でも取入れればトキキストーリーに  
至しい日本だから止むを得ぬとしても斯くては遂に興  
行難の破目に陥らやう。

「何ぞ彼女をどうさせたか」(無声物の分)は対切五回  
同演映をしたほセメンションを起したものである。  
現代物もさうく、テーマに行詰つた折柄とて各会社  
が是に倣つて左傾気分のイデオロギー物を製作した。ガ  
コワイ検閲のメダサンに喰止められ、非道いカンティン  
グの末、気の抜けたビル同様の物にされ、まじつた  
今は下火になつたとは云へ、大抵の現代物はブルジョ  
アの暗闘をテーマとして作られてゐる。今年あたり  
「ナンセンス物」がポツリ／＼現はれて教はれてゐる。

時代物は既に剣劇の時代ではない。一時、勤王、佐幕の士と敵の如く、この江戸末期の俠義を演じた幕末秘話の物語全盛を極めたが、それも衰へたやうな時代の高尚は、戦後、ものより、健康なものへ傾いて行きたつた。あるには本へ林長次郎張りのだらけた世話物に満足する観衆では無い。矢張り「剣」を離れない程度で、ユーモラスな配した有の「物」が歓迎されて行く。時代物は何と云つても日本映画の中堅である。精進である。如何なる外国物にも味へない一種の熱と氣魄が漲つてゐる。今後諸外国から如何に人智を益し、妙技を凝らした超人映画が日本で演進しても、時代物だけは屹然として生命を保つて行く。独自の味があると思はれる。

今時代物の花形は日活の名トリスであらう。曰く俳優大河内傳次郎、監督伊藤大輔、撮影唐沢弘光のコンビナシオンである。「續大岡政談」素浪人忠義、一作毎に白熱的人氣を呼んでゐる。大河内は日活の至宝とされてゐるだけに、超特作は必ず彼の主演である。がさうした大物よりも前述のトリス物に於て彼の特徴である、演劇がより加はり、グロテスク味が濃厚であるやうだ。

吾々に阪東妻三郎の名は既に久しいものである。その久しきに亘つて、今尚、時代物の人氣を奮興つて覇を握つてゐる。彼の要は剣の王である。堂々たる風采、炯然たる剣技の魅力は彼れを指して世には見出し難い。彼れが名作「からす組」を最後にして、松竹系統の独立プロダクションを退いたことは、松竹近頃の痛手であらう。

年未だ廿六、既に一家の風が有り、珍らしく緻密に洗練された演技を以て一方に覇を唱へてゐる市川右太

エ門がある。独立プロに倚る松竹系統である。剣の人氣者として他に帝キネに市川百之三、助松竹に月形竜之助がある。が彼等は單に剣の俳優であつて、演技は二流に墜ちるものである。

剣に傾かず世話に碎けずの演出で男女両性に広くファンを持つ者に日活の定岡千鶴蔵、全、沢田清太郎、温容と氣品が千鶴蔵の強味なら、若くは熱い清の得意とも本はれやう。時代物の好尚は此の二人の藝風を交して漸次同化して、あるやうだ。

関西劇界の大立物、雁次郎の女婿、林長次郎は美男である。昔から美男に名譽無しの相場通り、彼れが如何に松竹下加茂の金看板であらうとも、義夫を眞似て置く及はざる世話物では、花ちゃんや竹やの憧憬の的であるに過ぎない。

六尺堂の長髪と魁姿が容貌でユーモラスな藝風を益つてゆく新妻英助は和製バンクローフトである。其他箇々のファンを繋いでゐる者、東亞に嵐寛寿郎、帝キネに團徳磨、市川玉太郎、マキノに谷崎十郎、南光明、根岸東一郎、沢村園太郎等々がある。

河部五郎の退社以来一向振はなくなつた日活女優の大御所酒井米子は、伏見直江の進出と共にすつかり影がうすれまじつた。米子——直江と組ませたら誰でも直江に礼を入れる。流石の大河内すら彼女と相俣としてこそ光るとも云はれる。直江は地獄「何でえ」式の傳法肌である。ヴァンプは生れつきだ。是れ彼女が現はれるシーンのグロ、エロ気分がヒタリと板に載る所以である。

ヴァンプ型に東亞の泉駒子がある。が是は型が小さい。唯、彼女のイットある眼だけが買物である。帝キネに鈴木すみ子がある。既に走いたりの感

ある。但しそれは映画の上だであつて例の主演は中々旺んたもの、世三歳油の乗つた盛りで現在白井社長と手玉に取つてゐる。温和しい(マ)方の時代劇女優、日活の梅村容子(このお婆さん)唐入お吉(又若返へる)櫻井京子、山田五十鈴、松竹の千早晶子、若水絹子、及妻の赤瀬子、マキノの大林梅子、マキノ智子、淡島千景等はそれ／＼入組である。

松竹現代劇部の女優は実に多士多士だが女優側が貧弱な点は恰も日活のそれが女優豊富で男優難であるのと好対照である。だから松竹物は女ファンを喜ばせ日活物は男ファンに歡迎されるのも妙である。

松竹側第一が藤野秀夫、田沼酒脱、く人情の概微を刺す松竹の元走走人である。次は鈴木博明、傳ちやんは説明を要せぬほど普遍的である。絹代と組んだラゴシんで満天下の子女を喰はせる松竹の弗箱水のである。同じく今賣出しの道子とラゴシんで、傳明の向うを張つてゐる昭和のドンファン岡田時夜がある。日本一の性格俳優岩田祐吉がある。同じレベルの座人奈良真養がある。松竹隨一の愛嬌者渡辺篤がある。最近ぐと光つて来た高田稔がある。等々を挙げれば際限がない。女優は？栗島すみ子走いたる今日は一愛恋美子スリーワンである。田中絹代、及川道子は使ひ道が狭い。龍田静枝は夜移ぎに墜ちた。筑波雪子などは問題にひらぬ。是れに反し日活は、イットとエロの女達の島である。華商界出身の荷書と割引しても依然日活のピカ一

である。入江たか子、八面玲瓏何でも来いの強者である。モガ、島田、丸マゲ、左様、何を振られても手際よく征服してゆく。流石日活の露女として時のめいた萬年如女夏川静江も匠頃は教養を譲つてマダダゲの取ちである。此の二人に次ぐ者に負けず劣らず級の滝花久子がある。少し走けたが往年のオペラ女優相良愛子がある。離通の利く佐久間妙子がある。モダン後の濱口露子、高津愛子が控えてゐる。ヴァンプ型に立口満の峰吟子が出張る。等々。

男優は甚だ心細い。山本嘉二、高木永二共に老人役である。先づ性格俳優小坂勇二郎、ザイの一番手である。島耕三、南部章三、中堅、モボ神田俊二、木禮二など、並べたのでは咄も松竹と相撲はとれない。

日活を退いた中野英治は愛人英百合子と共に帝キネに走つた。入社早々の「若き血に燃ゆる者」がガゼン好評であつた如く、彼も亦現代劇の寵児である。帝キネには日本唯一の喜劇シネ俳優板狂兒がある。輕快なユーマラスな演技は正に日本人離れがしてゐる。歌川八重子は此社の女王である。「何が彼女で賣つた高津愛子は動く人形に過ぎない。其他松竹から叩へられた香椎園子、山路ふみ子などは未知数である。東証は最近、故九條武子夫人の「無憂草」の映画化を計画して夫人に扮する酷似の女性を業へんに全国に募つて、多大の宣傳効果を挙げた。岡屋文史の「子守唄」と共に期待されてゐる映画である。金巻千円せ(安い!)で当選したのが三京

那智子、一躍スターとなった訳である。東屋には、餘り知られぬ優秀な性格俳優橋三郎が在る。女優には岡田静江、都会双曲線「恋愛結婚制度」等で彼女の勝れた技藝が世に認められて来た。川島茶葉子も挙げねばなるまい。マキノの現代劇は寂寞たるものである。強いで拳ぐれはシヤンの砂田駒子位なるもの。最近二百円円の株式会社に榮轉？したが今後大いに發展するであらう。

監督としては日活の林田実、松竹の牛原虚彦が依然として大監督の名を冠してゐる。帝キネの鈴木重吉も新感覺派の頭領として慧星の概がある。昨年白井社長に代つてマキノの新興帝キネの進出は眼ざましいものである。俳優に於けると同じく、名ある監督を各方面から望んだ。日活から志波青果、マキノから曾根純三、押本七之助などを引いて現在では俳優、監督、技師等総て一流の陣立てが整つてゐる。東屋も関西宝塚歌劇團と提携して、マキノも陣容を充実して東都進出に躍進した。ある。いつまでも日活、松竹は古い新らしきもの。是等に代る時代が際々に近づきつつある。日本映画は是から混沌時代に入り、更に一轉化して新生面に萌え出すものと見られてゐる。日本の映画時代は是からである。尚、外国物、常設館、経営法などに就いて述べたのであるが、紙数超過で止むを得ず稿半ばでストップする。

詩

友が行つた

蘇南

起きた。寝た。食ふた。私の親友が行くのです。パンスの風吹くといふ。遠い田舎へ行くのです。

親友の行く前夜。しみじみと別れが惜しくても更けるのも忘れませんでした。でも淋しいですもの。

私に親友が去りました。命のある中に又会へるとほんとうがしらぬ。私は深い沈黙に倦ちました。

之から又一人を……いやだ。夜は思ひ出す。二人で寝た時のこと。

—— 七月の詩集帳から ——

詩

田園の思出

比嘉藤永

自画像

火を黙って  
置き忘れられた  
エンジン音のやうに  
空しく  
煙はた  
空間に彷徨ふ。

田園の思出

電車に揺られながら  
居眠りしてゐると  
麗らかな午後の太陽が  
わたしの心に  
ふと田園の思出を  
桜けていった。

宿命

真夜中

死んだ街が、  
壊れた夢の骸が——  
歪んだ蒼白い顔も  
灰色の空に向けて  
横たわると  
時の牢番は十字を切つて  
そつと、剣をぬぎてゆく……

刹那

逃げる、逃げる、逃げる……  
あ、逃げました。  
刹那ととも  
永遠が逃げてしまった。

—— ZOKU・ニ ——

春なればこき 一郎

春風が私達の胸に沈み込んで生暖い陽の光りが頭上をサーッと掠め去ると座つても立つても居られぬ様か焦燥に唯だ目的もなく浮つて出るのです。道路の両側に規律正しく並んでゐる立樹にも漸く一年が過ぎ去つた若葉が勢ひよく延び出して街をねり歩く私達の横顔から足の先までジツト眺めておま

もありません。木の枝から枝へ飛び交ふ小鳥を見つけて、羨しいまぐしい奴だとばかり夢中に小石を投げてついで、エーンわれもあんなに飛べたらなアなんぞ大きな溜息を吐いて居る。何も知らずに飛び交ふ小鳥こそ、迷惑を感じて居るであらう。たまに木陰を見つけて、夫婦若でもあらう、仲よく草葉に腰をすえて四方山の話に花を咲かせて居るのに一人やさもさして三百度の高熱を上げたり下げたりする若者に至つては、實にお気毒千萬な次第です。(おわり)

母を恋ふ 静子

慈愛にみてる母君よ  
恋しくあれど遠けれは  
唯だ想ふなり夜もじりも  
思ひ焦けても棄けれは  
慈愛にみてる母君よ  
会ひたいなれど遠けれは  
唯だすこやがにその日は  
思ひ焦けても遠けれは

三〇・〇・〇・〇・〇